

東カリブ諸国機構（OECS）6カ国月間情勢報告

（アンティグア・バーブーダ、ドミニカ国、グレナダ、セントクリストファー・ネイビス（セントキッツ）、セントルシア、セントビンセント及びグレナディーン諸島）

（2019年8月）

在トリニダード・トバゴ日本国大使館

1. 概況

- セントキッツの次期総選挙に関する世論調査で、与党有利と野党有利の相反する2つの結果が出た。
- 国連中南米カリブ経済委員会の経済見通しで東カリブ諸国は概して好調な成長見通しが出された。
- ゴンザルベス首相が台湾を訪問し、同国の大使館開設式が行われ、台湾承認国は全て台湾に大使館を持つこととなった。

2. 内政

- 1日、ドゥーガン・セントビンセント新総督が正式に就任し、同国初の女性総督となった。
- 5日、セントルシア政府は、プラスチック製ゴミ削減のために1日以降全ての発泡スチロール及び一部のプラスチック食品容器の輸入が禁止となっていると発表。
- 6日付ドミニカ国紙は、6～9日ドミニカ政府の要請によりカリコム、英連邦及び米州機構から選挙制度改革支援のための合同ミッションが同国を訪問すると報道。
- 7日付セントキッツ紙は、ジャマイカの調査会社が行った世論調査で、野党セントキッツ労働党はセントキッツ島選挙区の8議席の内6議席を獲得し、圧勝するとの結果が出たと報道。9日、セントキッツ政府は、ジャマイカの別の調査で現連立与党は11選挙区の内7議席を確保し、再選されるとの結果が出たと発表。
- 8日付アンティグア紙は、米国際開発庁はUNDPと連携し、アンティグア警察に電子化された警察記録管理情報システム及びコンピュータ等を寄贈したと報道。
- 14日付グレナダ紙は、12月末までの990万東カリブドルの補正予算が9日可決された、内2百万東カリブドルは年金対策に充てられると報道。
- 16日付セントキッツ紙は、警察長官代行は記者会見で、今年から実施している和平作戦の結果、犯罪組織から違法銃器30丁が自発的に返納された、今

年の殺人事件は25%減少したと発表し、ハリス首相はこの成果を賞賛したと報道。

●21日付グレナダ紙は、ミッチェル首相は、20年第1四半期に包括的な政府歳出見直しを実施し、歳出管理及び効率的、歳出を強化し、歳出管理の制度的メカニズムに関する提言を発出すると述べたと報道。

●25～27日、熱帯性暴雨ドリアン（後にハリケーンに発達）が東カリブ地域に接近し、セントビンセント、セントルシア、ドミニカ国などが影響を受けた。

●29日付セントビンセント紙は、ゴンザルベス財務大臣は議会の承認なしに過去数年間で1億東カリブドル超の支出があったと認めたと報道。

3. 経済

●1日付ドミニカ国紙は、スケリット首相が気候変動強靱性強化のため、電気自動車の輸入関税及びVATを10月から撤廃すると述べたと報道。

●2日付各紙は、国連中南米カリブ経済委員会は、19年のカリブ諸国の経済成長見通しについて、アンティグア5.9%、ドミニカ国9.9%、グレナダ3.3%、セントキッツ3.1%、カリブ諸国全体では2.1%との予測を発表したと報道。

●7日付ドミニカ国紙は、スケリット首相は、住宅建設の拡大ため世銀から1億400万東カリブドルの借款を受けると発表したと報道。

●7日付ドミニカ国紙は、観光省は本年第1四半期の同国への来訪者は43,447人と前年同期比で67%、17年同期比で8%と大きく伸びたと発表したと報道。

●14日付ドミニカ国紙は、オーストリー農業大臣は、農民及び漁民が最近開始された世銀の2千5百万東カリブドルの緊急農業生計及び気候変動強靱性支援プロジェクトに応募するよう奨励したと報道。

●15日、平山大使はセントキッツを訪問し、ハミルトン農業漁業大臣との間で水産関連機材調達に関する無償資金協力2億円に署名した。

●15日付セントキッツ紙は、同国警察は台湾から警察力の全国的な対応、交通管理能力を強化するための警察車両12台を寄贈されたと報道。

●17日、セントキッツ政府は、18/19年のクルーズ船来訪者が2年連続で100万人を超えたと発表。

●21日付セントキッツ紙は、政府はクルーズ船用第2埠頭の建設は90%完成しており、予定通りに9月23日に開所すると述べたと報道。

●21日付ドミニカ国紙は、英国金融誌は、同国の投資による市民権プログラムは正当な注意、効率性、迅速性、経費及び信頼性の面でこの地域の他の14

カ国より優れていると評価し、スケリット首相はこの評価を歓迎すると述べたと報道。

●29日、世銀はグレナダ政府の行政サービスのデジタル化戦略の支援のため、1,500万米ドルの借款を承認した。(9月2日現地紙報道)

4. 外交

●2日付セントキッツ紙は、核兵器廃絶国際キャンペーン(ICAN)は、7月31日にセントキッツが核兵器禁止条約を批准したことを歓迎する声明を発表したと報道。

●2日、平山大使は公邸にて今年のJETプログラム参加者15名のレセプションを開催し、セントビンセントからの参加者1名も出席した。

●7~8日付セントビンセント紙は、ゴンザルベス首相が台湾を訪問し、8日台湾のセントビンセント大使館開館式に蔡英文総統、呉外交部長、ポーマン初代大使等と共に出席した、セントビンセントは台湾承認国で唯一大使館を開設していない国ではなくなったと報道。

●9日付グレナダ紙は、米国の青年大使招聘プログラムに東カリブ諸国から8人が参加し、3週間米国で研修、交流を行うと報道。

●11日付セントルシア紙は、ケニヤッタ・ケニア大統領は、バルバドスでOES首脳と会談した際に、同国の21~22年国連安保理非常任理事国立候補への支援を要請した、シャスネ首相(カリコム議長国)はカリコムとアフリカ連合の首脳会合開催等のカリブ・アフリカ関係の強化が必要と述べたと報道。

●12日付各紙は、カナダは入国査証申請者の生体情報収集のチームをアンティグア、セントキッツ、グレナダ等に近く派遣し、生体情報を提供した申請者はオンラインでの申請が可能となると報道。

●14日付ドミニカ国紙は、12人の学生が中国の奨学金を得て中国の大学に留学すると報道。

●15日付セントキッツ紙は、14日台湾は同国への人材育成支援として毎年最大12万ドルの支援を行い、台湾への留学、教師育成、農業研修などを行う覚書に署名したと報道。

●16日付セントルシア紙は、シャスネ首相は米下院外交委員会スタッフ代表団と会談し、カリブ地域イニシアティブ、2国間関係、ベネズエラ情勢等につき協議し、会談後米国との関係は強固と述べたと報道。

※これは、報道等公開情報をまとめたものであり、報道の真偽まで確かめたものではありません。